



鷹図 真砂幽泉筆
(個人蔵)

令和 2 年 6 月 5 日	
資 料 提 供	
担当課(室)	県立博物館
担当班・係	学芸課
担 当 者	主幹(学芸課長) 竹中康彦
電 話	073-436-8684(学芸課)

田辺の画家・真砂幽泉の活躍を紹介！ — 県立博物館企画展の開催について —

県立博物館では、江戸時代後期に田辺で活躍した画家・真砂幽泉(まなごゆうせん) (1770～1835) の活躍を紹介する企画展を、下記のとおり開催いたします。

真砂幽泉は、田辺領三栖組(現在の田辺市)の大庄屋の家の長男として生まれ、34歳の時に家督を継ぎますが、若いころから絵を学び、生涯にわたり作画にいそしんだ人物です。その幽泉の子孫の家には、完成された作品のほかに、絵の学習過程を伝える下絵・絵手本類など、膨大な資料が伝来しています。当館では、それらの資料の寄託を受け、平成30年より外部の研究者4名と共同で調査を進めています。これまでの調査では、狩野派の流れをくむ京都の鶴澤探泉(つるさわたんせん) (1755～1816) らから、直接手ほどきを受けたり、通信教育のようなやり方で教えを受けたりしていたことが判明しました。

この企画展は、2年間の調査の中間報告として、幽泉の絵画制作の舞台裏がうかがわれる興味深い作品を中心に紹介いたします。(別添のちらし・展示のみどころもご参照下さい。)

記

*企画展「紀伊田辺の画家 真砂幽泉」

*令和2(2020)年6月13日(土)～7月12日(日) 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

*毎週月曜日休館(※新型肺炎流行の状況により、変更される場合があります)

*一般：280円(230円)、大学生：170円(140円) ()内は20人以上の団体料金
高校生以下・65歳以上・障害者・県内在学中の外国人留学生は入館無料

*主催：和歌山県立博物館

*協力：五十嵐公一氏(大阪芸術大学芸術学部教授)・有賀茜氏(京都文化博物館学芸員)・
山口奈々絵氏(兵庫県立歴史博物館学芸員)・池田泉氏(大阪大学大学院生)

*展示構成 第1章 絵画学習から完成作へ 第2章 通信教育で学ぶ
第3章 京で学ぶ 第4章 紀州での活躍

*展示総数 20件49点(別添ちらし参照)

*会期中のイベントについて

新型コロナウイルス感染防止のため、ミュージアム・トークなどのイベントは中止します。

*担当者 和歌山県立博物館 主幹(学芸課長) 竹中康彦

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14 《和歌山城南側》

(TEL:073-436-8684(直通) E-Mail: admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp)

(※資料カラー画像を提供できます。このメールアドレスに、その旨ご連絡下さい)

展示のみどころ（県立博物館 企画展「紀伊田辺の画家・真砂幽泉」）

1 学習の過程がわかる下絵と作品

農民の稲作と養蚕の様子を描いた「^{こうしよく ずびようぶ}耕織図屏風」（展示番号3）は、大坂の画家・^{おおおかしゆんぼく}大岡春卜の作品を原本として、^{まなごゆうせん}真砂幽泉による原本の写し→下絵→完成作品という流れが追体験できる。



耕織図屏風（左隻）
伝 真砂幽泉筆
（龍泉寺蔵）

2 京都の師匠から「通信教育」で学ぶ

展示番号8は、巻頭に幽泉の印が^お捺され、裏に「^{たんせんひつてほん}探泉筆手本」と記されており、師匠の^{つるさわたんせん}鶴澤探泉の手本を、幽泉が模写したものと考えられる。ほかに、「^{かんざんじつとく}寒山拾得」や「^{じゅうろうじん}寿老人」などの人物、山水図などの画題が含まれている。探泉からの書簡類によると、探泉の手本やそれを写した幽泉の模写は船便や飛脚で、田辺と京都を往復したことがわかる。



下絵・絵手本類のうち花鳥図
（個人蔵）

3 晩年の代表作・^{さんせいず}三聖図

縦 74.2 cm・横 136.4 cm
という大画面に、右から^{らう}老子・^{しやく}釈迦・^{こうし}孔子の三聖人を描いた迫力ある作品。藩の儒学者・^{にいたこうこ}仁井田好古（1770～1848）が賛文を記す。幽泉が亡くなる2年前の作品（展示番号14）。



三聖図 真砂幽泉筆 仁井田好古賛（個人蔵）